

Special
Message

なぜ進路を決定しない、できないのか。 学校・教師の役割と責任を あらためて考えてほしいのです

生徒が自分で進路をなかなか決められないのは、どうしてなのか。その背景にあるものと、教師が果たすべき役割を、カウンセリング心理学の研究者でキャリアカウンセラー育成などにも力を注ぐ渡辺三枝子先生にお話をいただきました。

取材・文／清水由佳 撮影／西山俊哉

進路決定までの プロセスこそ重要

「進路決定力」と言いますが、それ自体、一つの能力があるわけではないんです。進路を決めるという意志決定のために、いろいろな情報を得たり、人の意見を聞いたり、今までの自分をしっかり振り返ってみたり…。そんなさまざまな経験をしながら、「決めなければならぬ時も来たり」とりあえずこれにかけてみよう」という決断をするプロセスなのです。

職場体験をするというのも、そういう意味で重要なわけです。自分が体験して現場をどうとらえたかはもちろん、同じような職場に行った他の人の話を聞くことで、「同じようなところに行ったのに、違った面を見てきたんだ」という気づきとなり、職場にはいろいろな側面があるという視野の広がりにもつながります。こういったさまざまな体験のプロセスを経ない限り、進路決定はできません。つまり、多様な体験の積み重ねによる決定のプロセスこそが進路



筑波大学名誉教授
渡辺三枝子

筑波大学名誉教授、同大学研究センター客員研究員。明治学院大学文学部教授、筑波大学教授・同キャリア支援担当特命教授、立教大学大学院特任教授などを経て現職。元日本労働研究機構特別研究員。文部科学省「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議」主査や「キャリア教育・職業教育特別部会」委員など、キャリア教育推進に努める。ペンシルバニア州立大学大学院博士課程修了、Ph.D. 取得（カウンセリング心理学・カウンセラー教育専攻）。著書「新版キャリアの心理学—キャリア支援への発達のアプローチ」（編著・ナカニシヤ出版）、「生徒指導・教育相談・進路指導」（編著・田研出版）など多数。



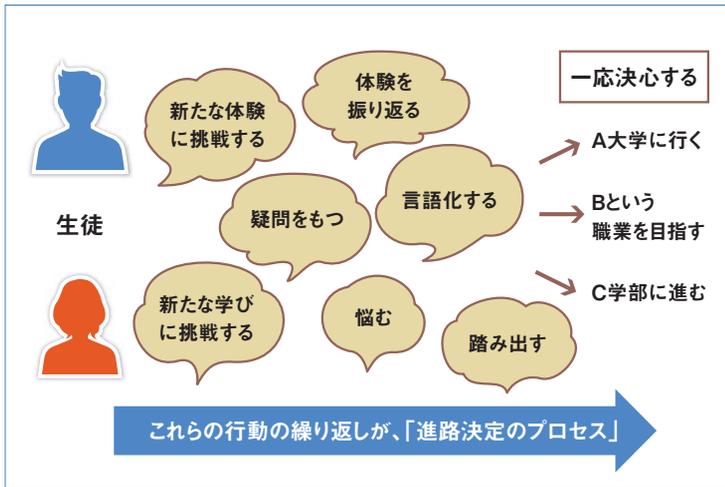
『キャリアカウンセリング
再考—
実践に役立つQ&A』



『キャリアカウンセリング
実践—
24の相談事例から学ぶ』

GCDF-Japan キャリアカウンセラー育成を行うキャリアカウンセリング協会で特別研究会員として活躍するなど、日本におけるキャリアカウンセラー育成にも力を注いできた渡辺先生が著したキャリアカウンセリング場面での指南書。

図1 進路決定の力となる決定までのプロセス



決定の力となるわけです。そのような進路を決定するプロセスは、教育の目的である全人的発達を促すことそのものと言えるでしょう。

しかし今、高校生を取り巻く社会は急激に変化し、情報があふれる進路先も多様化しています。今ある職業がどう変わるかもわかりません。SNSやインターネットを通じた非現実の要素もたくさん含んだ情報にもさらされています。今の高校生は、大人が考えるよりもはるかに変化の激しい環境の中に生きています。

その一方で、高校生は15歳から18歳という子どもでもなく大人でもない時期にいます。次の年齢段階である「社会的に自己責任を取ることが求められる大人の時代」に入るための最後の準備期間という青年期前期の特徴は、昔とそれほど変わりはありません。

そのような重要な時期に、社会環境の急激な変化はますます自己責任を取ることを求めています。果たしてその準備を今の学校は本当に考えているのでしょうか。

学校の存在意義は、家庭や地域の状況に影響されず子どもたちの発達を促すこと。非常に重要な責任を担っています。もっと、決定することの困難さとその意味、生徒が決定できない・しないのはなぜかを、考えてみる必要があるのではないでしょうか。

担任教師が生徒の支援者になりづらい理由とは

大学生でもよく「進路を決められない」という学生がいます。そこで、「何がきっかけでこの学部に来たの？」と聞くと「先生や親が勧めたから」と答えてしまう。「じゃあ、この学部に入ってつまらなかったでしょ？」と尋ねると、「そうでもない。

勉強したことは面白かった。でも、この学部に入ったら進むべきだと教授が言う領域には興味もてない」と答えるんです。つまり、先を決められないという発言は「先生の期待には応えられない。先生と自分がつ将来のイメージが違う」という意志表示のこともあります。

「決められない」という言葉は、生徒が、簡単には言葉で表現できない状態にいるということかもしれません。また、「決めていないのではなく、親や教師が期待することではない、ということだけは決めている。でも、具体的に説明できるほどはつきりしていない」など、複雑な状況にいることを意味しているかもしれません。

そこで、まずは「いろいろな過去の経験や成績のことなど、気がかりは何か」「決めたくないキッカケは何？」と尋ね、そこからきちんと対話をする。それがわかれば、あとは「一緒に探していこうよ」と、探索のプロセスをたどっていくことができます。迷っているなら、迷っている中身を「言

語化」できるようにする。それが教師の役割です。

ところが、担任教師相手だと、生徒はなかなか自分の困っていることを話さなかったり、ごまかしたりしがちです。それは、「成績」で評価される関係にあるからです。

生徒の側の防衛もありますし、先生方も成績で子どもを見てしまう。「成績じゃなく、あなたの将来を」と言ってみても、なかなか生徒は割り切れない。難しいんです。

そこで、「体制」が必要になります。特に、高校入学時の1年生の担任教師の姿勢は、大きなカギになります。例えば、中学から高校に進むときに、何がしたいかとは関係なく、成績で他に入れるところがなかったり、ネガティブな動機で入学してくる生徒も増えています。そのような生徒を受け入れるわけですから、「この3年間で今までの分を取り返そうよ」くらいに、教員集団が意思統一しておくことが大切です。生徒にとつては、この学校で今までの人生

自己責任の重要性が高まる社会へ生徒を送り出す責任と準備は、できていますか？



で一番いい経験ができる、大切にされる、成績ではなく達成感や変化・成長をきちんと見てくれる。そういう「体制」で迎えることが大事です。「数学は苦手だけど、国語で今回はがんばっていた」など、成長する姿を情報交換して見てあげるので。

教科を通じて 成長を認めることが大切

結局、教育者として「当たり前前の役割」を思い出してくださいということなんです。「どうせこの学校に来る子たちは進路も就職も難しい」と偏見をもっていないませんか？ 教師は生

徒を伸ばすことが役割です。例えば、

「英単語をがんばって覚えて、小テストで良い成績をとれた」と先生同士の情報交換で聞けば、「がんばったんだって」とひと声かける。「数学つまらないと言ってるけど、国語で成績があがったじゃないか」など、良し悪しではなく、事実できているところを見つめる。きちんと努力した結果や努力している姿を認めるということが大事です。それがなかったら、3年生になって進路の話をしようとしても、「この学校の先生にはわかってもらえない。話しても無駄」と思われてしまうのです。

もちろん、2年、3年の担任の先生も、成績だけではなく、前の学年からの変化や成長で見えていくことが大事です。前よりも元気になったとか、逆に元気がなくなつたみたいだとか。生活面のことだけでなく、「最初は英語の文法がわからなくて苦労していた」というような話があれば、どう取り返していけばいいか、教科の中で話し合えばいいか、教科の中で。特に何か問題がある場合、家庭の事情は変えようがありませんが、教師が変えていけるのは、「教科」です。教科の中の達成感や成長によって、将来への期待や希望につなげてい

先生同士が情報交換し、生徒の できている事実を認めていますか？

くことが、大事ではないでしょうか。そのためには、3年間という区切りの中で、先生たちが縦や横、斜めの関係でつながりながら生徒に関わることが大切です。自分の城に閉じこもるのではなく、先生同士が情報共有していく体制が不可欠なのです。

将来にわたり自己判断できる 知識や態度を育てる

一番難しいのは、何も言わない、目につぎづらい生徒です。でも、目につかない＝問題がないということではありません。もしかしたら、中学時代にお客様扱いされていた経験を引きずっているからかもしれません。もちろん、家庭環境や、発達障害的なこともありえます。これだけ社会が変化したら、子どもがどんな生活をしているかはわかりません。何も話さない子をそのままにするのではなく、先生がカウンセリング的な力、対話する力を発揮して、生徒と向かい合うことが大事です。例え

ば、「いつもお話ししないけど、何か考えごとがあるの？」など、聞いていけばいいのです。そして、「誰とだったら、話せそう？」と、自分以外でも誰かと話ができることを確認すればいい。部活の先生に話せるとか、先輩や友人と話をできているということがわかるかもしれません。そうやって、日常的に話しかけていく。廊下のすれ違いがまだって、話ができます。カウンセラーと担任の違いは、教師は日常環境の中で声をかけられる立場にいるということです。

そうやって誰かに気にかけてもらい、自分を認めてもらった経験は、未知の将来や直面する現実に自分をかける「勇気」につながります。教師は、新しい教育技法にばかり関心を向けるのではなく、「生徒が将来にわたって自己判断できる知識や態度を育てるとはどういうことか」を、今一度考えてみる必要があるのではないのでしょうか。